

令和3年度宮代町廃棄物処理検討委員会
第1回会議録

1 日時・場所

令和3年4月7日（水）14：30～16：45
社会福祉協議会2階 会議室

2 出席者

審議会委員：13名出席

両宮会長、吉田副会長、小島委員、小林委員、小室委員、式田委員、
長倉委員、神田委員、小矢島委員、山根委員、唐澤委員、須藤委員、横尾委員

事務局：町民生活課：吉永課長、山崎副課長、小林主幹、田邊主査、三反崎主事

3 委嘱式

- ・町長から委員を委嘱
- ・町長挨拶

4 開会

5 委員及び事務局職員自己紹介

6 会長・副会長の選出

会長に両宮委員、副会長に吉田委員で決定。

7 諮問

町長から両宮会長に宮代町一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の見直しを諮問。

8 事務連絡

- ・宮代町廃棄物処理検討委員会について資料1のとおり説明

9 議題

- (1) 廃棄物処理について
- ・資料2のとおり説明

小島委員：廃棄物処理は普段は町行政で行っているということですね。だけど保健所も関わ

ってきますね。安全というか衛生面では保健所が関わってくると思うのですが。

以前、病院の方で出していたのですが、保健所と関係があるのではないですか。

小林主幹：今回に関しては絡んでこないと思います。恐らく医療系の廃棄物のことですね。

小島委員：これには医療系は入らないのですか。入る、入らないは別としても、コロナのことがあるので、関係があるかなと思います。

小林主幹：コロナに関しての対策は必要と思いますが、いわゆる医療系の廃棄物は対象外です。

小島委員：全体的に見ないと出来ないのではないかなと思ったので発言しました。

小林主幹：ありがとうございます。

雨宮会長：小島委員への回答はよろしいですか。

小林主幹：小島委員がおっしゃってくださったのが、病院から出るごみが保健所に関係してくるので、この議論にも関係してくるのではないかというご指摘でございました。

山崎副課長：久喜宮代衛生組合でもコロナの感染の疑いがある方の家庭から出る廃棄物の収集等につきましては、国の指針に基づきましてお願いをしているところで。そのような取組をこちらの計画の中の収集のところに入れていただく必要があるのかどうか、今後皆様のお話をいただきながら進めさせていただきたいと思います。こちらの計画を見ていただくと分かるのですが、様々な取組、施策がございます。これから小林の方からも説明させていただきますが、その中に感染対策も入れる必要があるのかどうかを今後皆様に十分議論をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。以上でございます。

小島委員：論議の方向を聞かせていただきました。

雨宮会長：それでは10分間の休憩といたします。

-休憩-

雨宮会長：それでは時間となりましたので再開いたします。それでは資料の3について説明をお願いします。

(2) 現行計画について

・資料3のとおり説明

小室委員：リサイクル率というのは、マテリアルリサイクルのことを指していますか、それともサーマルも含めたリサイクルですか。

小林主幹：サーマルも含んでおります。今マテリアル、ケミカル、サーマル等の話が出ましたが、後ほど説明させていただきます。皆様と一緒に勉強していければと考えて

おりますので、現時点では、そのようなものなのだと考えていただければと思います。

(3) 検討の進め方について

・資料4・資料5のとおり説明

唐澤委員：プラスチックの様々な問題がありますね。プラスチックに代わる代替製品は企業の方で研究しているのでしょうか。聞いたところによるとベンツとかトヨタは数年前から車のボディに大麻を利用して製造していると。容器包装にこのような方法を入れることはできないのでしょうか。

雨宮会長：将来は出来ます。

唐澤委員：大麻というのは1年間に九州とか沖縄ですと、5、6回生産出来るみたいなのですね。植物油脂にもなりますし、1万5千から2万くらいの製品を作れる可能性がある食物です。食物ですから、自然に土に還りますから国が国策としてそちらにシフトすれば、プラスチック問題は一挙に解決すると思うのですがいかがでしょうか。

雨宮会長：将来的にはとても素晴らしいと思うのですが。

唐澤委員：何か弊害があるのですか。

雨宮会長：弊害は、まだ研究段階だということですね。良いことも分かりますが、問題はこれからあるかもしれません。将来、石油から作ったプラスチックですから、化石燃料をなるべく使わない方向に行くというのは、温暖化対策のためにもその方向にいかざるを得ない訳です。しかしプラスチックというのは、現在は安定し、安いので非常に使われやすいということです。2030年、2050年というスケールで考えれば、石油系ではない材料が出てくる可能性はあると思います。

唐澤委員：お聞きしたいのですが、水で走る車、日産が数年前に発表して、いつのまにか頓挫したようですが、お風呂の残り湯で走る車が出来れば、これは水しか出ませんから環境に大変に良い車かなと思います、そのような事実はあるのでしょうか。

雨宮会長：その話は私も今、初めて伺ったくらいなのですが、今、色々と話題になる技術が本当に実用化されるかどうかは非常に難しいです。

唐澤委員：未知数ですね。

雨宮会長：非常にお金も要りますし、そのようなことを考えると、将来は変わっていくけれども、徐々に変わるということだと思います。

唐澤委員：先生の大学ではそのような研究はなされていないのですか。

雨宮会長：大学の工学部、私ではなくても、新しい技術にチャレンジをしているということはありませんけれども、やはり大学の研究は大学の研究であると思っていただ

良いと思います。来年、再来年を変えるというものではありませんから。

唐澤委員：お金もかかりますからね。分かりました。

雨宮会長：それに頼って、身近なことについて将来をかけるというのは、少々異なるのかなと思います。

小室委員：ちょっとよろしいですか。私は容器業界に40年くらい務めているのですが、その間にプラスチックは光分解性プラスチックというのがありました。それはレジ袋にその樹脂を入れて、そうすると太陽の光で消滅するというか、実際無くなります。あと、植物を入れたプラスチック、ロンドンオリンピックなんかでお皿とかやりましたけれど、これもほとんど見かけなくなっています。ですから、色々な新しい技術がありますけれど、実際ものになっているケースというのはあまりないのです。それとペットボトル、別称ポリエチレンテレフタレート（PET）というのですが、要はポリというのはモノマーから調合するわけですね。ですから、モノマーに戻してまた再利用すれば新しい原料として使えるということでTEIJINが子会社でやろうとしたけれど、ちょうどその時にガソリンが180円位した時代があったと思います。その時代なら採算は合いました。今100円位だと思います。そうすると割が悪い。それでその会社は倒産してしまいました。経済活動ですから、再生原料として経済的に上手くまわるのかということを含めてリサイクルというのは難しい。実際に商業化できるのかどうか。バージン原料に比べて、リサイクル原料は高いので、この差がどれだけ抑えられるのかということのリサイクルが上手くいくか、いかないかの問題があると思います。

唐澤委員：そうですね。企業として利益があがらないと成り立ちませんからね。

小室委員：過去40年間で色々あって、今は上手くいっていないというわけです。

唐澤委員：そういう一面があるわけですね。

雨宮会長：ありがとうございます。これから2050年までに日本は脱炭素化というのを首相が旗を振っている状況です。温暖化の影響を受けたりしていますのでCO₂の排出を減らすだとか石油の使う量を減らすとか、必ずその方向に行くと思います。

唐澤委員：疑問があるのですが、我々学校で習ったときにですね、CO₂を植物が吸って、太陽の光合成でもって酸素を出すと。だから、二酸化炭素を全部ゼロにしたら、高等生物は全て死滅するという話も聞きますがどうなのですか。

雨宮会長：今でも二酸化炭素は空気中に400ppmくらいあります。

唐澤委員：植物は二酸化炭素が無くなると枯れちゃいますよね。

雨宮会長：問題は別々に考えなければなりません。人間が作る人工物のプラスチックの二酸化炭素と自然の中の二酸化炭素まで含めると訳が分からなくなります。その辺を分けないといけません。

唐澤委員：しかし、今太陽を観測している学者が、太陽系で地球だけが温暖化しているわけではなくて、他の天体も土星のタイタンというのがありますよね。氷でできているのですが、その氷、あと火星の氷も解けているのですね。ですから、その辺の考えというのはどうなのでしょう。

雨宮会長：その辺は詳しく分かりませんが、とりあえず地球のことをしっかり考えていくべきだと思います。地球の温暖化は年々悪化していますから、そこは我々の子供の世代に出来るだけ、影響が少なくなるようにしなければならないと思います。

唐澤委員：分かりました。

小室委員：プラスチックの導入の時、業界が何を言ったかといいますと、ペットボトルは木や紙を燃やすカロリーと一緒に燃やしてもH₂O(水)しか出ないということで、燃やしても大丈夫だよ、というのが最初のPETを導入した売り口上でした。逆に言うと、生ごみの中に入るとペットボトルは頑丈なのでそこだけ空気が入り、よく燃えるというのがスタートでした。それが最初のセールストークです。燃やしてもいたずらをしない樹脂といたずらをする樹脂があるのが現状なのです。だから、プラスチックを全部燃やせば良いということでは無くて、燃やすと例えば、塩化ビニールだと、塩素ガスが出るものなどがあります。プラスチックのリサイクルの一番の難しさは樹脂が20~30種類あり、様々な配合があるので一概に1つで燃やしてしまえば良いというわけではないところです。その難しいところを皆で考えてやらなくてはいけないと思っています。

雨宮会長：ありがとうございます。皆さん勉強になることが多いかと思しますので、これからもこのように議論していきたいと思えます。よろしくお願いします。

(4) プラスチックリサイクルの現状と今後について

・パンフレット資料のとおり(雨宮会長から説明)

小室委員：ちょっとよろしいですか。容器包装リサイクル法というのはペットボトルのPETとかプラとか、それにお金を払うことによってPETやプラを使用出来ますよ、という権利なのです。食品業者の。これは元々ドイツのDSD(Duales System Deutschland)社のシステムがあるのですが、ヨーロッパというのはごみの焼却温度が800度です。そうするとプラスチックごみを燃やすと1200度でないとダイオキシンが発生するので、ヨーロッパでは酸性雨の問題からプラスチックは燃やせませんよ、ということでリサイクルが広まったのです。日本は1200度の炉が多かったから、燃やすということについてあまり言われなかったのです。ところが、久喜宮代衛生組合は800度でしか燃やせないというのが現状です。

雨宮会長：久喜宮代衛生組合からリサイクル協会にまわっているプラスチックごみですが、

冒頭に事務局からあったように、リサイクル率が高いというのは、そうした状況を含んでいるからですね。

小室委員：業者が入札するのではないですか。例えば、ガラスなり、ペットボトルなり。今は有償ですか、逆有償ですか。

両宮会長：町でどのようになされているのかは、次回事務局からご説明いただくということをお願いします。瓶は逆有償ではないかなと思います。私も詳しく分からなくて申し訳ないです。それでは、お配りしたプリント（日本容器包装リサイクル協会のHPの抜粋）の説明を差し上げて終わりにしたいと思います。

・資料のとおり説明

10 その他

(1) 今後のスケジュールについて

第2回 令和3年4月22日（木）14：30 社会福祉協議会2階

第3回 令和3年5月26日（水）14：30 すてっぷ宮代（旧ふれ愛センター）

(2) その他連絡事項など

・謝金の支払いについての説明

11 閉会

両宮会長：それでは皆様ありがとうございました。

山崎副課長：ありがとうございました。それでは閉会にあたりまして吉田副会長から閉会の挨拶をいただきたいと思います。

・吉田副会長挨拶

山崎副課長：以上をもちまして、閉会となります。本日はありがとうございました。気をつけてお帰りください。